

| ページなど | 誤 | 正 | 備考 | 摘要 |
|---------------------|--|--|--|-------------------------|
| P132 5.6.1(3)解説 | コンクリートに生じる圧縮応力度については、設計基準強度が50N/mm ² 程度までは圧縮強度の2/3を超える圧縮応力度、それ以上の強度においては圧縮強度の40%程度を超える圧縮応力度が生じなければ、非線形性が強まり可逆性を示さなくなることはないと考えることができる。 | コンクリートに生じる圧縮応力度については、圧縮強度の2/3を超える圧縮応力度が生じなければ、非線形性が強まり可逆性を示さなくなることはないと考えることができる。 | 「設計基準強度が50N/mm ² 程度までは」の削除 「、それ以上の強度においては圧縮強度の40%程度を超える圧縮応力度」の削除 | ①2018.1.10掲載 ②第2刷で訂正 |
| P153 5.8.1(4)解説 | $Mud=C\cdot y_1+T\cdot y_2$ ……………(解5.8.3) | $Muc=C\cdot y_1+T\cdot y_2$ ……………(解5.8.3) | 「Mud」→「Muc」 | ①2018.1.10掲載 ②第2刷で訂正 |
| P264 10.4.3(5)解説 | (4) 隔壁に発生するひび割れを抑制するため | (5) 隔壁に発生するひび割れを抑制するため | 「(4)」→「(5)」 | ①2018.1.10掲載 ②第2刷で訂正 |
| P264 10.4.3(5)解説 | (5) 桁高変化がある場合には、 | (6) 桁高変化がある場合には、 | 「(5)」→「(6)」 | ①2018.1.10掲載 ②第2刷で訂正 |
| P51 4.2.3(4)解説 | ε_{cs} :コンクリートの基本乾燥収縮ひずみであり… | ε_{s0} :コンクリートの基本乾燥収縮ひずみであり… | 「CS」→「S0」 | ①2018.5.14掲載 ②第2刷で訂正 |
| P77 5.2.5(3)解説 | なお、フック又は定着版の必要性は個々の状況によって… | なお、フック又は定着板の必要性は個々の状況によって… | 「版」→「板」 | ①2018.5.14掲載 ②第2刷で訂正 |
| | | | | |